

むさしの・ガーデン紀行 令和3年度 登録計画実施報告書

むさしの・ガーデン紀行連絡協議会 令和4年3月



むさしの・ガーデン紀行
MUSASHINO GARDEN JOURNEY

■具体的な事業の実施状況

1) 第17回・森の地図スタンプラリーの実施 —ガーデンツーリズム制度登録記念— 令和3(2021)年10月16日(土)～12月5日(日)

むさしの・ガーデン紀行の基幹活動である「森の地図スタンプラリー」を「むさしの・ガーデン紀行」のガーデンツーリズム制度登録記念事業として行った。春期は昨年同様に新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催を見送ったが、秋期はコロナ感染状況を注視しつつ対策を講じ、ウィズコロナの時代にも適した健康促進活動をサブテーマにしながら行った。昨年(2020年)との数字的比較は下表の通りであるが、デジタルスタンプラリーの参加者数が大幅に増加した。しかし、リアルスタンプラリーにおいては、今回が、日時限定の6カ所のみでの開催であったため、昨年、クイズラリーで行った時よりも減少した。デジタルスタンプラリーは参加者の行動傾向をデータから推測できるなど、メリットも多いが、現状、リアルスタンプラリーからの全面転換は、時期尚早と思われる。リアルスタンプラリーに慣れ親しんだ層の離脱とスマホに対応できない子ども対策も考慮しなければならない。いずれにしても、ウィズコロナ、アフターコロナの時代に向けて、今後のあるべき開催のスタイルを模索していきたい。

	開催日数	方式	参加者数	応募者数	施設訪問数
2020年	36日間	クイズ	2,200名(推定)	212名(達成賞)	2,551
		デジタルスタンプ	176名(登録者)	48名(参加賞)	448
		合計	2,376名(推定)	260名	2,999
2021年	51日間	デジタルスタンプ	784名(登録者)	254名(参加賞)	2,910
		リアルスタンプ	1,439名(延人数)	191名(参加賞)	1,439
		合計	2,223名(推定)	445名	4,349



●ウィズコロナ、アフターコロナの時代のあるべきイベントのスタイル検証もかねて、基本、デジタルのスタンプラリーを行った。

●スマートフォンでラリーポイントのQRコードを読み取ることで、スタンプをゲット。

●デジタルスタンプラリーと並行して、一部の会場(オープンカフェ&パネル展示会場の6カ所)で、日時限定のリアルスタンプラリーを実施した。

2) モデルコースの策定

事業立ち上げ段階における最初のモデルコースであった「ほっこり野川の旅」に続き、テーマを文学に設定した「むさしの文学紀行」を策定した。この2つのコースは、「第17回・森の地図スタンプラリー」と連動したもので、ラリーポイントとなっている構成庭園（施設）を中心に地域を巡るものである。コースの設定にあたっては、地域を初めて訪れる人を想定し、できるだけ分かりやすいものとした。また、地域との連携で、ランチや休憩時、テイクアウトのお弁当などに利用できる店舗をコース上に組み込み紹介した。

●テーマ①「ほっこり野川の旅」

「水と緑と歴史の回廊」を主テーマにしたエリアを象徴した内容のコース。構成庭園の滄浪泉園、はけの森美術館、武蔵野公園、野川公園、武蔵野の森公園、大沢の里水車経営農家・古民家を回遊。



●テーマ②「むさしの・文学紀行」

武蔵野に居住した3人の作家、武者小路実篤、山本有三、太宰治の足跡をたどるコース。構成庭園の井の頭恩賜公園、玉川上水緑道、武者小路実篤記念館・公園を回遊。



3) モニターツアーの実施

上記のモデルコースを実践するモニターツアーを各2回行った。コロナ感染予防対策とツアーの安全性を重視し、各回の定員を10名とした。全てのツアーで満員御礼となった。ツアー後に詳細なアンケートを実施。結果を分析することで、今後の本格的なモデルコース策定やツアー実施の貴重なデータが得られた。

●テーマ①「ほっこり野川の旅」

モデルコースをほぼ一日の行程で周遊。移動には、地域で運営されているレンタサイクルを利用したサイクリングツアーを行った。昼食は、野外でのピクニックランチ（地元カフェ調達のお弁当とスイーツ、飲み物）を楽しんだ。



●青空の下で、密にならない空間を保ち、コロナ感染対策しながらランチを楽しむ参加者。

●緑豊かな地域を自転車（レンタサイクル）で回遊。



●テーマ②「むさしの文学紀行」

吉祥寺駅に朝、9時に集合。井の頭恩賜公園から玉川上水緑道、三鷹駅近辺と太宰、実篤、有三の足跡や旧宅を訪れた。基本、徒歩ツアーであったが、三鷹から調布への移動は路線バスを利用。調布では、武者小路実篤記念館を訪問した。12時半ごろに現地解散。昼食なしの半日コースで行った。

●武者小路実篤記念館で現地学芸員の解説を聞く参加者。



●山本有三記念館で行われていた野外パネル展示を見学する参加者。

4) オープンカフェ&パネル展示の実施

コロナ禍における安全で安心なイベントのあり方を模索することを目的として実施場所と実施時期を分散するイベントを実施した。それと同時に、密にならない屋外でのパネル展示を行い、むさしの・ガーデン紀行の取り組みと地域の魅力を様々な角度からの紹介を行った。また、地域のキッチンカー等との連携でカフェ空間を創出した。この取り組みは、事務局、観光協会、構成庭園、キッチンカーや地域店舗との協働で行われ、今後の地域に根差した取り組みの端緒となるものだった。



●都立武蔵国分寺公園での会場



●都立武蔵野公園での会場

■その他の事業

1) 官民連携まちなか再生推進事業

今後、「むさしの・ガーデン紀行」の計画を実行していくにあたって、計画が地域に根差した活動となることを意図し、国交通省募集の「令和3年度官民連携まちなか再生推進事業」に応募し採択された。この制度は、官民が連携して地域の未来ビジョンを策定するものであるが、令和3年度は、初年度の事業として、未来ビジョン等の新規策定に向けた検討（中間案の策定）を行った。

実施事業者	対象エリア	事業概要
むさしの・ガーデン紀行 連絡協議会 (東京都小金井市他)	東京都西部地域	ウィズコロナ・アフターコロナの時代にも、「オープンスペースで健康的で多様な楽しみを享受できる東京のオアシス的な場所」、「様々な主体が個性を活かした活動を行うことで、地域経済が潤う場所」、「エリア全体がひとつの大きなガーデンのような存在となり心おだやかな日常を享受できる場所」を目指し、未来ビジョン等の新規策定に向けた検討を行う。

※国交通省発表資料の部分抜粋

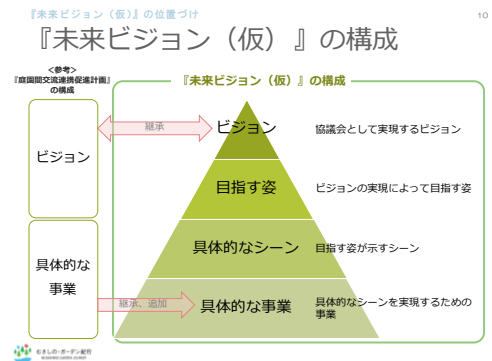
●実証実験事業

地域の未来ビジョン策定に向け、森の地図スタンプラリーと連動しながら下記の実証実験を行った。

- ・基礎データの収集：地域の現状と他都市の取組みの把握
- ・ヒアリング、アンケートの実施：むさしの・ガーデン紀行連絡協議会を構成する施設管理者や関係する自治体、観光協会が抱える課題の共有と「むさしの・ガーデン紀行」の目指す方向性や実証実験の内容について意見を聴取した。
- ・モデルコースの策定とモニターツアーの実施：エリアにおける新たな回遊ルートを開発・策定し、新たな周遊行動の促進による庭園（施設）間連携の可能性を模索した。

●未来ビジョンの策定

ウィズコロナ・アフターコロナの時代にも、オープンスペースでの健康的で多様な楽しみを享受できる東京のオアシス的な場所、様々な主体が個性を活かした活動を行うことで、地域経済が潤う場所、エリア全体がひとつの大きなガーデンのような存在となり、心おだやかな日常を享受できる場所を目指し、地域の未来ビジョンの策定に取り組んでいる。令和3年度は、定例の協議会を2回、臨時の協議会を2回行った。その結果、令和3年度の目標であった地域の未来ビジョンの中間案を令和4年2月に策定できた。令和4年度は、未来ビジョンの最終案策定に向けて、令和3年度に行った実証実験や協議事項をもとに着実に進めていきたい。



●未来ビジョンの資料



●協議会での未来ビジョンの検討

2) 今後の展開

むさしの・ガーデン紀行連絡協議会の中長期的な検討課題として、昨年度の報告書で下記を掲げた。いずれも協議会が自立した継続的な活動を推進していくための資金獲得につながるものである。ガーデンツーリズム計画を官民連携まちなか再生推進事業の地域の未来ビジョンの策定と連動させながら事業基盤の確立を図っていきたい。

- ・エリアブランディングにより地域の価値向上を図り地域産業や店舗との連携を高め、互助の関係での協賛金を募る。
- ・モデルコースやガイドツアー、マルシェなど主催事業の魅力を高め主催イベントで収益を確保する。
- ・地域で様々なアクティビティを行うプレイヤーのプラットフォームとなり、PRや参加者募集の窓口となることで手数料収入を得る。
- ・ガイドツアーや各種イベントに参加した個人や団体で構成されるファンクラブ的な組織をつくり、年間の会費を集める。
- ・エリア回遊の休憩所や基地的な施設となる回遊ステーションを受託事業として行うことを検討する。